

令和7年度 協働提案事業補助金テーマ

1	【テーマ】	【関係課】
	多様性を認め合えるまちづくり	ダイバーシティ推進室
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様化する様々な人権課題に対して、正しい知識の習得と理解を深める研修の場が少なく、また、人権問題についての関心が低い ・ 担当室でも男女共同参画のパネル展や、ダイバーシティ推進事業として講演会を実施しているが、参加者を集めるのに苦労しているのが現状である ・ 当市はR4.10.1にパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入したが、R6.6月にこの制度の認知率を把握するためアンケートを実施したところ、213名の回答のうち「知らない」「わからない」という回答が64%を占め、依然として認知度が低い状態であることがわかった 	
【目指す状態（実現したい状態）】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を含め、多様性について考える機会がある状態 ・ 性的少数者への偏見が減り、当事者にとって過ごしやすいまちになっている状態 ・ 性的少数者や当事者の意見を実際に聞くことができる機会を増やす 		
2	【テーマ】	【関係課】
	ハンセン病問題に対するハードルを低くし、長島へ行くきっかけづくりをする	ダイバーシティ推進室
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長島の国立ハンセン病療養所は人権学習の場として高いニーズがある。しかし重いイメージが強いため、長島まで行くことに高いハードルを感じる人がいる ・ 入所者の高齢化により徐々に療養所としての機能が収縮している。入所者が一人もいなくなった後も、ハンセン病の歴史を発信し続ける場として機能させたい 	
【目指す状態（実現したい状態）】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立ハンセン病療養所を2つ保有する自治体は全国でも瀬戸内市のみ。これを瀬戸内市の強みとして活用できるような取組がある状態 ・ 入所者がいなくなったとしても、後世に語り継がれるような場所として確立されている状態 ・ 長島まで足を運んでもらい、景色の美しさやそこに漂う独特な空気を知ってもらえるようなイベントが定期的開催される状態 (例) ウォーキングツアー、交流会... 		
3	【テーマ】	【関係課】
	親子で学ぶ防災	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代は子育てや仕事で忙しく、防災に関心があっても学びの場に参加する時間がない ・ 既存の防災研修等は、子連れで参加できる形式のものが少なく、安心して参加しにくい ・ 体験型防災イベントなど、子どもでも楽しみながら参加できる取り組みが少なく、子育て世代のニーズに答えられていない ・ 過去の大規模災害における避難所等では、「女性・子ども用品、専用スペースの不足」「性犯罪、暴力行為の発生」などの課題が発生しているが、瀬戸内市においても女性や子どもに対する支援体制が不十分である 	
【目指す状態（実現したい状態）】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども連れでも安心して参加できる取り組みが展開されている状態 ・ 親子で学んだことをもとに、家庭の防災力が向上する状態 ・ 親どうしのつながりが生まれることで、災害時にも相互に助け合える状態 		

4	【テーマ】	【関係課】
	防災の視点からのコミュニティ創出・活性化	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災は「行政から教わるもの」というイメージが強く、住民どうして学びあい、創意工夫によって地域防災力を高めていくような取り組みが少ない ・ 防災は「専門的な知識が必要な難しい分野」というイメージが強く、市主催の研修・訓練等への参加者が、特定の性別・年齢層に偏りやすい ・ 既に防災に取り組んでいる人たちが交流し、取り組みを深めたり、連携しあったりする場がない 	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「女性」「子育て」「医療・保健・福祉」「外国人」「まちづくり」「教育」などに関する既存のコミュニティが防災に取り組むことで、強みを活かし、広く市民の防災意識の高揚が図られるとともに、各コミュニティの活性化にもつながる状態 ・ 市内で行われている防災活動について交流したり、新たに活動を創出したりする場がある状態 	
6	【テーマ】	【関係課】
	SDGs（持続可能な開発目標）の推進に向けた普及啓発	企画振興課 （SDGs推進室）
	【解決したい課題・現状】	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民へのSDGsの認知度は年々向上しているものの、令和6年度瀬戸内市市民まちづくり意識調査によると、「SDGsを知っている」と答えた市民は56.5%、「SDGsの目標達成のために何らかの行動している」と答えた市民は30.7%にとどまっている。 ・ 「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」の出前授業・出前講座の展開により、子どもたちへのSDGs教育は進む一方、大人への意識醸成や行動変容が進んでいない。 	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民がSDGsを正しく認知するだけでなく、SDGsのための行動を行っている状態 ・ 誰もがSDGs＝持続可能なまちづくりとして市民が身近に感じ、自分にもできるSDGsを発見し、地域活性化に参画している状態 ・ なお今回は、SDGsの目標NO.4「質の高い教育をみんなに」、NO.11「住み続けられるまちづくりを」に関連した、今までにない新規性のある事業提案を募集する 	
6	【テーマ】	【関係課】
	瀬戸内市営バスの認知度向上による新規利用者の増加	企画振興課
	【解決したい課題・現状】	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数は年々増加傾向にあるものの、固定客が多い ・ 市が発行する公共交通マップや市営バス時刻表では市営バス路線沿線の飲食店や店舗の情報が得られない ・ 観光客が目的地まで向かうためにはどの路線に乗ればよいか迷うことがある 	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市営バスを利用したことがない人でも、市営バスを利用してみたいと感じている状態 ・ 市営バスの新規利用者の増加を促すような、魅力的な交通マップがある状態 ・ 初めて瀬戸内市を訪れる観光客であっても、どの路線に乗れば目的地に行けるかが分かる状態 	

7	【テーマ】	【関係課】
	自然とのつながりを感じる郷土・里海づくり	生活環境課
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸内市内の動植物の調査等による情報が不足している ・ 保護活動をしている市民は、各自で活動をしており、それぞれの活動について情報を得る機会がない ・ 動植物の生息・生育に関する知識の習得ができる機会が少ない 	
【目指す状態（実現したい状態）】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護活動を行っている団体の地域内連携が図れている状態。また、それぞれの活動成果を発表できる場がある状態 ・ 保護活動に若い人の参画があり、いきいきと取り組んでいる状態（継続可能な状態） ・ こどもの頃から自然に興味をもつことができるような魅力的な地域活動・体験がある状態 ・ 市民の保護活動を市全体のデータとして活用できる仕組みがある状態 		
8	【テーマ】	【関係課】
	高齢者の孤独・孤立の防止	いきいき長寿課
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単身高齢者が増えたため、近所づきあい等が少ない高齢者は突然死しても、しばらく気づいてもらえない ・ セーフティネットの構築については、郵便配達員や配食サービス事業者、移動スーパー等との見守りに関する協定等で実施をし、民生委員等が見守り活動をしてきているが、どうしてもセーフティネットから漏れる人が出ている ・ ヘルパーを頼れず、近所に頼みごとをしやすい親戚や仲の良い方がいない場合、買い物難民になったり、家の中にゴミが溜まっていき、ゴミ屋敷になってしまう ・ コロナ禍の影響が残り、高齢者の交流や社会参加の機会が減っている ・ 近所づきあいも減っており、地域のつながりが希薄化している 	
【目指す状態（実現したい状態）】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活を支えるための身近な支援（買い物支援やゴミ出し支援等）の取組みにより、定期的に声掛けを行い、地元や市のイベント等の情報等の世間話を通じて、利用者の健康状態の確認や社会参加の促進、孤立感の解消、安否の確認ができる状態 ・ 高齢者に対する様々な支援について定期的な巡回をする地域の人材の発掘、地域のルールに応じた地元町内会等との協議、それを企画運営できる団体が存在する状態。さらに参加者や企画運営する団体が地域に戻った際、地域を支える人材が育成されている状態 ・ 支援の声掛けをきっかけとした、昔ながらの地域でお互いを支えあう状態 ・ 支援について、利用者が一部自己負担等をするすることで、かえって利用しやすくなり、事業の継続性についても検討しやすくなる状態 ・ セーフティネットや地域の交流・支え合いから漏れる人がなくなり、孤独死・孤立死が起らない状態 ・ 孤立した孤独な高齢者がいない状態 ・ 既存のセーフティネットと合わせて、異変への気づきが強化された状態（この仕組みで見守りの全てを賄うのではなく、セーフティネットの1つとして補完する状態） ・ 既存の市の事業とは違うものが定期的に行われている状態 <p>※ 市内全域ではなく、一部地域でモデル事業を行い、ノウハウを他の地域や団体に展開していくことも対象とする</p>		

9	【テーマ】	【関係課】
	在宅療養・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発	トータルサポートセンター
	【解決したい課題・現状】	
	<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養やACP（アドバンス・ケア・プランニング）については、市民講座や出前講座の実施、広報せとうちや市ホームページへの記事掲載等で市民への普及啓発を行ってきたが、市民講座の参加者アンケートや専門職から挙がる課題等から、在宅療養・ACPについて知り、自身に医療や介護が必要になったときにどうしたいかを前もって考えている市民の割合は高くないと考えられるため、効果的な取り組みが必要。既存の取り組みは医療や介護が必要になった市民や自身の健康や医療・介護等への関心が高い市民へのアプローチとなっている 	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
<ul style="list-style-type: none"> 市民が、在宅療養やACPについて知り、もしものときに備えて、自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合う機会を持つことができる状態。特にこの分野に関心のない方にも在宅療養・ACPについて知っていただく機会・場が提供されている状態 		